**校長　田尻　由美子**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 【学校理念】「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ【教育方針】　１．「鍛える」　　頑張ることができる力（心・体・知のトータルバランス）２．「見守る」　　十人十色の個性と成長、集団の力３．「高める」　　豊かな教養・人権感覚・国際感覚・他者貢献【めざす学校像】100年を超える伝統を受け継ぎながら、生徒のニーズや保護者の期待に応える学校◎生徒一人ひとりの自己実現を最大限に支援する学校◎すべての生徒が安全・安心に生活できる学校◎保護者や地域のみなさんとしっかり連携し、生徒の生きる力を引き出し育てる学校　　　 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| 生徒の自己実現を図るため、生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。１、学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、その上に成り立つ自分で考え自分の言葉で説明できる力の育成。　　(１)　３年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定　　　(２)　学力向上を図るための組織的な体制を構築する。(３)　ＩＣＴ機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。　　(４)　授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす。　　(５)　平成29年度 学校経営推進費事業による「ＩＣＴを活用した授業」の充実を図るためＨＲ教室に設置した短焦点プロジェクターの活用充実やタブレット活用による授業改善の取組みを展開する。　　　　(６)　講習、補習の計画的実施と内容の充実(７)　新しい学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策(８)　テンミニッツの推進と生徒使用タブレットの活用※センター試験　対全国平均得点率10％アップ（平成29年度獲得の学校経営推進費による事業の３年間の目標）２．21世紀型能力の育成～高校卒業後すぐの進路だけでなく将来を見据えた社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する(１)　新たな時代に対応する３年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む。　(２)　生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う。(３)　人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神のや国際感覚の育成を図る。(４)　生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させる。(５)　社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨　※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（Ｈ30 87％）を2021年度には92％にする。　　「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率（Ｈ30 82％）を2021年度には92％にする。３．学校力のパワーアップ(１)　新しい組織の充実　横断化・全体化するためのシステムづくり　　(２)　目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのＲＰＤＣＡサイクルの浸透(３)　課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る(４)　教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる。(５)　広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する。　　(６)　教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| **学　力　を　伸　ば　す** | (1)恒常的な授業改善により、「基礎・基本の徹底、その上に成り立つ生きる力の育成。ア　授業改善の取組みを進めるイウＩＣＴ機器等の積極的活用　　(2)新しい学習指導要領や大学入試制度改革向けた準備と対策 (3)学校全体で組織的な授業力改善研修の実施 | (1)ア指導教諭を中心に授業力向上の取組を進め、授業評価や外部模試の結果等を踏まえた授業改善に取り組む。また、研究公開授業や内外の研修また、大学や地域の中学校との研究等を通して、授業形態・授業方法の研究・改善に取り組む。さらに、相互授業見学の拡大を図るとともに、教科会議を活性化させ、シラバスの充実を図り、新カリキュラムの検討を進める。イＩＣＴ機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業わかりやすさや効率・集中力を高める。ICT活用促進のための研修を実施する。その際、積極的に活用している教員を講師とするなど、相互の教員力向上を図る。ウH29の学校経営推進費事業による、ＨＲ教室短焦点プロジェクター等の活用により、学力向上の取組を進める(2)ア新しい学習指導要領の研究し、主旨を全職員で共有し新しい教育課程作成に取り組む。イ大学入試制度改革の研究および対策について検討(3)教育センターのパッケージ研修Ⅲ（2年目）を実施 | (1)ア・生徒向け学校教育自　己診断における、授業に関する満足度「教え方の工夫・授業がよくわかる」を85％以上（H30 81％）　・相互授業見学週間の実施　・全教科での研究授業の実施イ・技術段階別の、ＩＣＴ活用研修をさらに充実させる、生徒のICT活用と関連させて実施する。ウ・センター試験の全国平均に対する得点率H29年度比で10％アップ(2)ア管理情報室を中心とした検討会議を定期的に実施し職員に発信イ研究開発室中心とした検討会議を定期的に実施し、職員に発信(3)すべての教科での研究授業を実施 |  |
| **２１　世　紀　型　能　力　の　育　成** | (1)基本的人間力の鍛錬　　 (2)文化的・芸術的活動や読書活動の推進 (3)コミュニケーション能力の育成 (4)社会貢献・ボランティア活動の積極的参加推奨  (5)様々な体験活動を通じた人権感覚と国際感覚の涵養  | (1)挨拶、時間、清掃、感謝、貢献について日常的に全職員で指導に当たる。(2)２年生の芸術鑑賞、３年生の文楽鑑賞のほかに授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。文芸Ｇが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼び掛ける (3) 学校経営推進費支援機器を活用しプレゼンや発表の機会を校内外で実施(4)寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進 (5)3年間を見据えた人権教育の構築と組織的な国際交流活動の充実　　  | (1)全職員で実施(2)全員対象の読書コンクール　・読書マラソンの実施・その他コンテスト実施・外部のコンテスト等への参加および参加促進　　(3)総合探究授業、修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語コンテスト実施(4)寝屋川市や小・中学校との様々な連携・様々な形で全員が実施(5)人権教育の評価　肯定90%（H30 87％） |  |
| **学　校　力　の　パ　ワ　ー　ア　ッ　プ** | (1)目標や成果の共有と協働に努め、職員の一体化をはかる(2)ＰＤＣＡサイクルによる改善志向の定着 (3)教員の研修体制の構築ア　ミドルリーダーを育成する。イ　ＯＪＴを基本とした実践的な研修を計画的に実施。ウ　内外の研修参加による資質向上 (4)教育相談機能の充実 (5)学校広報と情報発信機能の充実(6)働き方改革について検討 | 1. めざす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設ける。
2. 学校教育自己診断。学校運営協議会に意見等の学校運営改善への反映

ア次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダをけん引役として実施し相互向上を図る。イ中堅教員を初任者研修の一部の講師とし相互の育成を図る。経験の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。ウ 　府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。(4)教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める(5)学校紹介PPや学校案内(次年度向け)のリニューアル(6)働き方改革について検討する | (1)目標共有にかかる職員自己診断結果　　肯定　80%（H30　63%）(2)PDCAサイクルにかかる職員自己診断結果　　　肯定　70%（H30 50%）(3)実施回数と振り返り　・5回以上(4)職員自己診断結果肯定　85%（H30 81%）　生徒自己診断結果　　　肯定　80%　(H30 77%)(5)生徒や経験の少ない教員なども参画し、学校案内の改定、H30改定のHPの内容の充実を図る(6)時間外勤務時間10％減 |  |